

令和6年度 愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム 自己点検・評価報告書

点検項目	自己点検・評価
プログラムの履修・修得状況	<p>2024年度においては、医学部は「医療のための情報学」「ICTリテラシー」「行動科学1a」「統計学1」の4科目、看護学部は「情報科学I」「情報科学II」「統計学」の3科目によりプログラムは構成されている。それらは全て1学年次開講の科目である。医学部のカリキュラムが改訂されたので、すべてが必修科目より構成されることとなった。ゆえに全ての学生が履修することとなっている。</p> <p>プログラムの修得状況は、医学部の修了者数は107名、看護学部の修了者数は129名であり、医学部と看護学部の修得率はそれぞれ93%と99%であった。</p>
学修成果	<p>学習支援システム(Moodle)により各授業ごとの課題提出・フィードバックがなされており、定期的に学習成果の把握ができています。看護学部の授業アンケートでは「シラバス」「講義の構成・内容」「教材」「評価」などが評価された。アンケート結果は教員へフィードバックされ、授業改善に活用されている。医学部は今年度は科目ごとのアンケートを実施していないが、メディカルデータサイエンスプログラム評価委員会がアンケートを実施した。今後は、その結果を教育プログラム委員会と共有することにより、本教育プログラムの改善にも活用していきたい。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>理解度について検証するために、上の科目別のアンケートとは別に、必須項目の「導入」「基礎」「心得」の3つの項目についてアンケート調査を行った。「理解できた」「概ね理解できた」と回答したのは以下のとおりである。医学部については、導入：81%、基礎：71%、心得：86%となった。看護学部については、導入：66%、基礎：66%、心得：77%となった。2023年度と比較していずれの項目とも数ポイント下がっている。自由記述のコメントには、医学部は「重要性は理解できた」看護学部は「難しかった」という記載があった。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本教育プログラムはすべて必修科目で構成されており、履修に関する推奨については考慮されていない。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>現在は、必修科目のみで教育プログラムの課程を修得できるようになっている。将来、科目が拡充されて選択科目が増えてきた時にこの問題を検討していきたい。</p>
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>二年度目の1学年次のプログラムが終了したところである。2年後（看護学部）もしくは4年後（医学部）から就職先（研修先）と共同で卒業生の状況を調査していく。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>教育プログラム評価委員会において、学内および学外委員の方々より産業界の視点を含めた形でご意見をいただいた。今年度は「資料が分かりにくい」「表計算ソフトなどの実践的なこともきちんと指導しておいてほしい」などの意見があった。次年度以降のプログラムの改善に活用していくとともに、分かりやすい資料を事前に準備し提供していく。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>地元の企業でデータサイエンスを活用している研究者を招き、「AIの現在と活用」と題して講義を行った（行動科学1a）。生成AIについても実演してもらい、学生たちはいろいろな事例について興味を持っているようであった。年度末の授業「PBL」ではAIをテーマとして扱った。グループワークで積極的な議論を行い、AIを学ぶことの意義も理解しているようであった。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>モデルカリキュラムに準拠した教科書を選定し、それを使用することによって、一定水準を維持している。学生アンケートによると、医学部では「理解できた」「概ね理解できた」との回答が79%であり、看護学部では「理解できた」「概ね理解できた」との回答が69%程度であった。これより「分かりやすさ」についてはある程度満たされているといえるが、昨年度と比較すると下降している。医学部については、新カリキュラムで新しい内容が加わったことが要因と考えられる。今年度のデータを生かし、分かりやすさの向上につなげていきたい。</p>